

中国語話者のための 日本語教育研究

中国語話者のための日本語教育研究会編

第 15 号

日中言語文化出版社

目次

CONTENTS

研究論文

Research Articles

オノマトペが持つ有声音・無声音の音象徴の指導効果の検討
—中国語を母語とする日本語学習者を対象として—

柏 晨悦 1

An Investigation of the Effects of Teaching Voiced/Unvoiced Sound
Symbolism in Onomatopoeia on Chinese Learners of Japanese
BAI Chenyue

中国人上級日本語学習者の文章聴解に及ぼすメモ行為の効果
—メモ行為の機能の観点から—

王 コウエン 17

The effects of the Note-taking on listening comprehension among advanced
Chinese learners of Japanese: Focusing on the Note-taking functions
WANG Xiaoyan

中国人日本語学習者のオノマトペの理解・記憶における漢字語による連想法の実証研究
盧 彭暉 32

An Empirical Study of Chinese Japanese Learners' Comprehension and
Memory of Onomatopoeia Based on Chinese Character Association
LU Penghui

日本語の基本語彙力別にみた中国人日本語学習者の和製英語の理解

呉 梅・玉岡 賀津雄 49

Understanding Wasei eigo (Japanized English words) by proficiency of
basic Japanese vocabulary of Chinese speakers learning Japanese
WU Mei, TAMAOKA Katsuo

日本語の基本語彙力別にみた 中国人日本語学習者の和製英語の理解

呉 梅 (明治大学大学院生)

玉岡 賀津雄 (上海大学, 名古屋大学)

要 旨

本研究では、中国人日本語学習者 191 名の日本語能力と和製英語の理解および特性を考察した。日本語の基本語彙の知識（基本語彙力）で分けた上位・中位・下位の 3 群の和製英語の理解に有意な違いがみられ、基本語彙力の向上と共に和製英語の理解に促進的に影響していることがわかった。さらに、3 群の和製英語 60 語の正答率を使って、階層性クラスタで分類した。その結果、3 つのクラスタが得られた。これらのクラスタは、学習者の和製英語に対する馴染み、意味的透明性、中国語での対応語の存在、英語表現の馴染みで分けられるようで、多様な要因が和製英語の理解に関与していることが示された。

キーワード：和製英語, 単純語と複合語, 中国人日本語学習者, 基本語彙力,
クラスタ分析

1 はじめに

大規模語彙調査（国立国語研究所，2005；橋本，2008）によって外来語の使用が増え続けていることが報告されている。外来語の中には、英語から借用されたものの、英語とは異なる日本語独自の意味を持つ「和製英語」がある。小林（2013）は、2007 年に放映された 100 本のテレビコマーシャルの内 90 本で和製英語が使用されていたと報告しており、頻繁に使用されている。そのため、外国人日本語学習者にとっても、和製英語を日本語の語彙として正しく理解する必要がある。

『日本語能力試験出題基準（改訂版）』（国際交流基金・日本国際教育協会 2007）には 533 語の外来語が含まれている。その内の 40 語が和製英語である。

そのため、和製英語は日本語教育で対象になるような基本的な語彙（基本語彙）ではなく、むしろ周辺的な語彙（周辺語彙）と考えられよう。中国人日本語学習者は日本語を学習することで日本語の心的辞書（mental lexicon；玉岡，2022）を構築すると考えられる。そして、日本語の基本語彙から周辺語彙へと心的辞書が拡張していくと想定されよう。そこで本研究では、中国人日本語学習者の和製英語の理解において、日本語教育で扱われる基本語彙の知識（基本語彙力）が周辺語彙である和製英語の理解にどう影響するかを考察することにした。

2 先行研究

『毎日新聞』の社説で使われる外来語の調査では、第二次世界大戦後の1945年から外来語がSカーブを描いて急に増加して、2005年くらいに飽和水準（Sカーブで平坦な部分）になったことが報告されている。1994年から2002年までの9年間の語彙全体に占める外来語の割合は平均で約5.00%である（橋本，2008）。また、『日本語能力試験出題基準【改訂版】』（国際交流基金・日本国際教育協会，2002）の1級語彙8,009語の内、533語の6.66%が外来語である（玉岡ほか，2008）。これらの内、英語を短縮したり、英語を組み合わせたたりして日本独自の意味が与えられた外来語が和製英語である。和製英語は、意味的には英語には存在しない日本語化した語彙である（柴崎ほか，2007；張ほか，2014）。また、前述のように和製英語の定義で若干の違いがあるが、和製英語は533語の内40語で、7.50%である。したがって、日本語学習者にとって大多数の和製英語が周辺語彙であるといえよう。

日本語学習者の和製英語の理解として、柴崎ほか（2007）、玉岡ほか（2008）、呉（2020）などの研究がある。日本語学習者の和製英語をテストで調査した最初の研究は、柴崎ほか（2007）である。アメリカの大学で日本語を学ぶ英語を母語とする日本語学習者36名と日本語を学んだことのない英語母語話者36名に対して、四択形式のテスト形式で、複合形式の和製英語の理解を調査している。その結果、日本語を学習したことのないアメリカ人と比べて、アメリカの日本語学習者は、和製英語の意味をしらなくても意味をある程度正しく推測できることが示された。さらに、柴崎ほか（2007）の方法を使って、

玉岡ほか（2008）は韓国語を母語とする日本語学習者 66 名に類似の調査を行った。日本語の基本語彙の理解を問うテストの得点（基本語彙力）で、上位群 34 名と下位群 32 名に分けて和製英語の理解を比較した。その結果、日本語の基本語彙の影響が強かったことを報告している。さらに、学習者の理解プロセスを詳しく理解するために、呉（2020）が中国人日本語学習者 57 名を対象に、日本語の基本語彙力テストと記述式の複合和製英語の理解テストを実施した。そして、柴崎ほか（2007）および玉岡ほか（2008）と同様に、和製英語の理解に対して、日本語の基本語彙が促進的に影響していることを報告している。これらの研究からわかるように、日本語の基本語彙の知識が和製英語の理解を支えていることがわかる。

ただし、これまでの研究はすべて複合形式の和製英語に関する検証であった。そこで、本研究では、和製英語を単純語と複合語に分けてより詳細に検討することにした。まず、中国人日本語学習者の日本語の基本語彙力が単純語と複合語の和製英語の理解にどのように影響しているか。さらに、個々の特徴が中国人日本語学習者の和製英語の理解にどのように影響しているかを明らかにする。

3 研究方法

3.1 和製英語の抽出

呉（2022）は、国語辞書や外来語辞書などを用いて、総語数 2,458 語の和製英語データベースを構築している。このデータベースから調査対象の和製英語を抽出した。選択の基準として、性差別と思われる語や専門用語は避けて、日常生活で頻繁に使用されられると思われる語を選んだ。その結果、1,771 語になった。さらに、日本語に堪能な中国人日本語学習者 3 名に、和製英語の意味を中国語で見せながら馴染みがあるかどうかを聞いた。そして、馴染みがあれば○、馴染みがなければ×と判断してもらった。そして 3 名が共に○と判断した和製英語のみを選んだ。さらに、毎日新聞社が構築している毎日新聞東京本社発行の朝夕刊最終版の全文、大阪本社・西部本社・中部本社・北海道支社の記事および各都道府県の地方面の記事を収録した大規模コーパスの検索エンジンでこれらの和製英語の使用頻度を検索した。そして、使用

頻度が1000回以上の和製英語を選ぶと、627語になった。

表1 単純語と複合語に分けて選んだ和製英語一覧と使用頻度

単純語				複合語			
ID	対象語	使用頻度	自然対数	ID	対象語	使用頻度	自然対数
1	ホーム	285,837	12.56	31	ゴールデンウィーク	13,797	9.53
2	サービス	246,689	12.42	32	テープカット	9,829	9.19
3	レンジ	86,942	11.37	33	ペーパードライバー	8,039	8.99
4	マンション	86,942	11.37	34	ガソリンスタンド	7,423	8.91
5	ポスト	53,717	10.89	35	イメージアップ	5,570	8.63
6	サイン	42,721	10.66	36	サポートセンター	4,967	8.51
7	スマート	33,865	10.43	37	ビジネスチャンス	3,957	8.28
8	ユニーク	32,185	10.38	38	マイペース	3,727	8.22
9	リストラ	26,559	10.19	39	シンボルマーク	3,685	8.21
10	トランプ	22,794	10.03	40	スタートライン	3,357	8.12
11	タレント	22,567	10.02	41	フリーライター	3,322	8.11
12	アイドル	16,949	9.74	42	ワンマン	2,869	7.96
13	ハーフ	15,556	9.65	43	タイムスリップ	2,793	7.93
14	サンド	13,743	9.53	44	コストダウン	2,718	7.91
15	シール	12,745	9.45	45	バックナンバー	2,711	7.91
16	アポ	10,861	9.29	46	キャッチコピー	2,589	7.86
17	フロント	10,256	9.24	47	ベッドタウン	2,550	7.84
18	リフォーム	9,422	9.15	48	キーホルダー	2,380	7.77
19	クーラー	6,585	8.79	49	ムードメーカー	2,173	7.68
20	デパート	5,033	8.52	50	ゴーサイン	2,105	7.65
21	コンプレックス	4,740	8.46	51	ゲームセンター	2,072	7.64
22	ファイト	4,640	8.44	52	オーダーメイド	1,928	7.56
23	クレーム	4,227	8.35	53	セールスポイント	1,769	7.48
24	バイク	4,212	8.35	54	メールマガジン	1,444	7.28
25	パーキング	3,769	8.23	55	ケアハウス	1,345	7.20
26	コンセント	3,706	8.22	56	ガードマン	1,280	7.15
27	テンション	3,450	8.15	57	エコバッグ	1,271	7.15
28	ムードィー	1,790	7.49	58	シーズンオフ	1,255	7.13
29	オーバー	1,481	7.30	59	ロールケーキ	1,171	7.07
30	セレブ	1,362	7.22	60	アイマスク	1,127	7.03
	平均	35,845	9.46		平均	3,507	7.93
	標準偏差	65,611	1.37		標準偏差	2,829	0.64

和製英語には、語構成からみると単純語と複合語がある。単純語とは、日本語で1つの語に相当する和製英語、複合語は2つ以上の語からなる和製英

語である。これらの判断には、形態素解析器の「Web 茶まめ」¹を用いた。たとえば、「コンビニ」は、英語では、convenience store で2語の複合語であるが、日本語としては1語で単純語とした。一方、「アフターサービス」は、英語でも after service で2語であり、日本語でも「アフター」と「サービス」の2語に分けられるので、複合語とした。この段階で、単純語が120語、複合語が507語になった。品詞の偏りを避け、繰り返しを避けて、最終的に単純語と複合語をそれぞれ30語ずつ選んだ。それらは表1に示した。

表1をみると、単純語の使用頻度は平均35,845回 ($SD=65,611$ 回, SD は標準偏差)で、複合語は3,507回 ($SD=2,829$ 回)であり、使用頻度に大きな違いがみられる。使用頻度の分布は基本的に歪んでいる。そこで、自然対数に変換して、独立したサンプルの t 検定を行った。その結果、単純語 ($M=9.46$, M は平均)と複合語 ($M=7.93$)には、有意な違いがみられた [$t(58)=5.45, p<.001$]。単純語のほうが複合語よりも使用頻度が高いので、単純語の理解が容易になる可能性がある。また、和製英語の理解を考察する上で、使用頻度についても同時に考察する必要がある。この点については、「3.6.1 和製英語の使用頻度の影響」の節で考察する。なお、本研究でとりあげた和製英語は、旧日本語能力試験の『日本語能力試験出題基準 (改訂版)』の語彙一覧には含まれていない。そのため、これらの和製英語は、基本語彙ではなく、周辺語彙であると想定されよう。

3.2 調査協力者

本調査は、中国の大学で日本語を専攻とする2年生が70名、3年生が109名、4年生が10名および大学院生が2名の合計191名を対象に実施した。これらの日本語学習者は、19歳10カ月から26歳4カ月までの年齢で、平均20歳4カ月 ($SD=1$ 歳2カ月)であった。日本語学習歴は、最短が1年10カ月、最長が6年で、平均が2年9カ月 ($SD=1$ 年5カ月)であった。日本への留学経験はなかった。なお、研究に参加した日本語学習者には、調査内容を詳

1 「Web 茶まめ」は、サーバーにインストールされた複数の辞書を用いて、Web ブラウザ上で MeCab エンジンによる形態素解析を行う Web アプリケーションである (堤・小木曾, 2015)。

細に説明して、同意書に署名してもらった。調査後に、謝礼を支払った。

3.3 調査方法

3.3.1 日本語の基本語彙力のテスト

基本語彙力の測定には、宮岡・玉岡・酒井（2011）が開発した語彙力テストを使用した。このテストは、四者択一の形式で、名詞、形容詞、動詞、それぞれ12問の合計36問を採用している。各問1点で36点満点である。

3.3.2 和製英語の意味理解テスト

中国語を母語とする日本語学習者が、和製英語の意味を正確に理解しているかどうかを判定するために理解テストを作成した。その際、柴崎ほか（2007）、玉岡ほか（2008）のように解答の手がかりとなりうる選択肢を提示するのではなく、和製英語の意味を学習者の母語である中国語で書いてもらう記述式を採用した。各問1点で、単純語と複合語が30語ずつで合計60点満点とした。設問文を作成する際、文脈の自然さを確保するために、現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ：<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/>）を参照し、共起頻度の高い語を組み合わせ、試験の設問文に用いた。対象語以外の語については、「日本語教育語彙表 Ver 1.0」で難易度を確認しながら、中級までの語を用いて、日本語学習者が支障なく設問文を理解できるように配慮した。設問文の語数は、日本語能力試験の質問文の語数に倣い、10から15語程度に設定した。また、和製英語の単純語と複合語はランダムに紙面で提示した。設問は、「今年のゴールデンウィークに、家族で久しぶりに山登りに行きました」という文があれば、下線部の「ゴールデンウィーク」がどんな意味かを中国語で解答するものである。この場合は、「黄金周，时间比较长的假期（黄金週，長い期間のお休み）」が正答である。

3.4 調査の手続き

本調査は、2023年6月から7月の2カ月の間に、中国国内の4つの大学で実施した。まず、日本語学習者に研究内容および研究目的を中国語で説明した。その後、同意書に署名してもらった。個人の特徴を記入するフェース

シートに記入してもらった。その上で、和製英語の意味理解テストを実施した。テストが終了した後で、日本語の基本語彙力のテストを行った。

3.5 和製英語の理解に及ぼす日本語の基本語彙力の影響

3.5.1 和製英語の採点法

和製英語の理解テストは記述式である。学習者の解答が正誤を判定するにあたり、日本語教育を専門とし、日本語に堪能な3名の中国人が、学習者の解答について採点を実施した。その際、正答を1点、誤答を0点、意味は近いが正答とはいえない場合は0.5点で採点した。なお、採点者3名の意見が一致しない場合は、2名の判定者の点数を採用した。3名とも判断が異なる場合は、3名の判定者が協議した上で、最終判定を行った。

3.5.2 和製英語の理解と日本語の基本語彙力テストの記述統計

本研究では、和製英語の意味理解と日本語の基本語彙力の2種類のテストを中国人日本語学習者191名に実施した。これらのテストの満点、平均、標準偏差、クロンバックの信頼度係数などは表2に示した。和製英語の理解は、60点満点で、最高点の60点から最低点の0点までの範囲で分布した。平均は27.17点 ($SD=11.12$ 点)であった。日本語の基本語彙力テストの平均は22.51点 ($SD=6.34$ 点)であった。2つのテストのクロンバック信頼度係数は、和製英語の意味理解が $\alpha=0.85$ 、日本語の基本語彙力が $\alpha=0.88$ で、非常に高い信頼性を示した。

表2 日本語の基本語彙力で分けた3群と和製英語の理解の記述統計

下位分類	満点	<i>M</i>	<i>SD</i>	Max	Min	α
和製英語の理解	60	27.17	11.12	57	0	
単純語	30	14.68	5.74	30	0	0.85
複合語	30	12.69	5.89	27	0	
日本語の語彙力	36	22.51	6.34	34	4	
名詞	12	8.01	2.37	12	1	0.88
動詞	12	7.99	2.56	12	0	
形容詞	12	6.51	2.29	11	1	

注：N = 191. *M* は平均. *SD* は標準偏差. Max は最高点. Min は最低点.
 α はクロンバック信頼度係数.

3.5.3 日本語の基本語彙力テストの得点による群分け

日本語の基本語彙力テストの平均は、22.51点 ($SD=6.34$ 点) であった。得点は整数なので23点を境として、 ± 2 点の21点から25点までの4点の範囲を中位群、上位群は26点以上、下位群は20点以下とした。上位群は67名、中位群は58名、下位群は66名となった。下位群の平均は15.38点 ($SD=3.87$ 点)、中位群は23.09点 ($SD=1.41$ 点)、上位群は29.03点 ($SD=2.20$ 点) となった。日本語の基本語彙力の3群について一元配置の分散分析を行った結果、3群の主効果が有意であった [$F(2, 190) = 417.27, p < .001, \eta_p^2 = .82$]。シェフェの多重比較で、3つの群がそれぞれ有意に異なっていることが示された。

3.5.4 和製英語の理解に対する日本語の基本語彙力の影響

日本語の基本語彙力別の和製英語の単純語と複合語の得点は、図1に示した。下位群全体の平均は19.82点 ($SD=10.13$ 点) で、上位群は35.10点 ($SD=8.34$ 点)、中位群は26.38点 ($SD=8.82$ 点) であった。また、単純語全体の平均は14.68点 ($SD=5.74$ 点) で、複合語は12.69点 ($SD=5.89$ 点) であった。

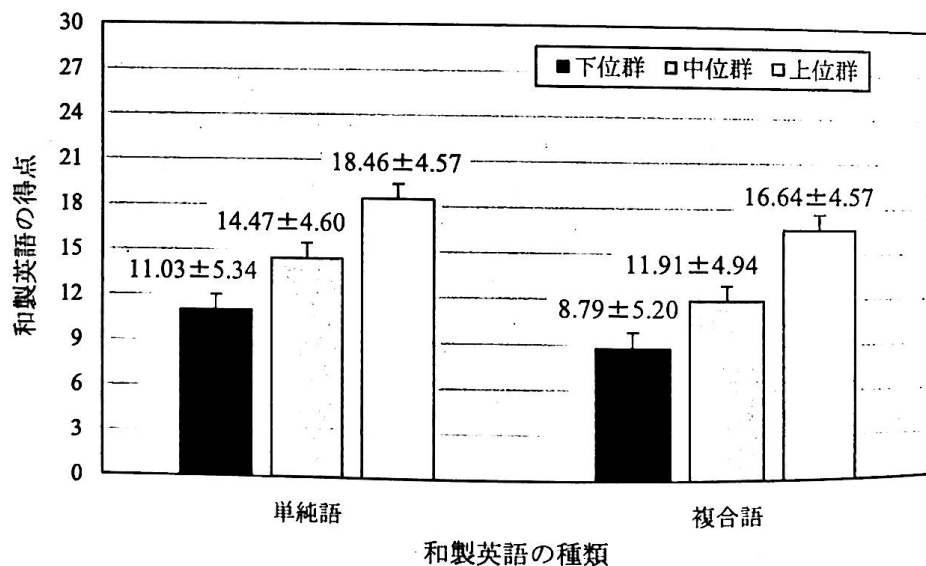


図1 日本語の基本語彙力で分けた上位・中位・下位群別の和製英語の得点

注: $N = 191$. バーは標準誤差, 数値は平均, \pm の後の数値は標準偏差

2 (和製英語の種類: 単純語と複合語) \times 3 (基本語彙力: 上位・中位・下位群) の二元配置の分散分析を行った。その結果、和製英語の語構成の種類の主効果 [$F(1, 376) = 19.47, p < .001, \eta_p^2 = .49$] および日本語の基本語彙力の主効果

果 [$F(2, 376) = 82.31, p < .001, \eta_p^2 = .31$] が有意であった。しかし、両変数の相互作用は有意ではなかった [$F(2, 376) = 0.18, ns, \eta_p^2 = .00$]。基本語彙力の3群の違いを検討するためにシェフェの多重比較を行ったところ、それぞれの群に有意な違いがみられた(上位 > 中位 > 下位)。日本語の基本語彙力が向上すると共に、和製英語の単純語および複合語の得点が伸びていることが示された。

3.6 日本語の基本語彙力からみた和製英語ごとの習得状況

3.6.1 和製英語の使用頻度の影響

ここまでで、日本語の基本語彙力が60語の和製英語の理解に影響することを実証した。しかし、表1の和製英語一覧から窺えるように、個々の和製英語の使用頻度には大きな違いがある。そこで、和製英語の理解に使用頻度がどのように影響するかを、60語の日本語の基本語彙力で分けた3群の得点の共分散として分析した。和製英語60語の日本語の基本語彙力で分けた上位・中位・下位群の3群の得点を反復測定とし、自然対数変換した使用頻度を共分散として、一元配置の分散分析を行った。その結果、基本語彙力で分けた3群の主効果は有意であった [$F(2, 116) = 179.12, p < .001, \eta_p^2 = .76$]、和製英語の使用頻度の主効果は有意ではなかった [$F(1, 58) = 0.32, ns, \eta_p^2 = .01$]。両変数の交互作用も有意ではなかった [$F(2, 116) = 0.37, ns, \eta_p^2 = .01$]。以上のように、製英語の使用頻度は、和製英語の理解に影響しなかった。本研究で基準とした使用頻度は日本語母語話者が読む新聞記事から計算した指標であり、日本語学習者には馴染みのない読み物だったのではなからうか。

3.6.2 日本語の基本語彙力3群の正答率からみた和製英語60語のクラスタ

日本語の基本語彙力で分けた3群の正答率から和製英語60語についての階層的クラスタ分析を行った。クラスタ間の距離はワード法、60語の和製英語間の距離は平方ユークリッド距離を使った。25ポイントスケールの5ポイントを基準として、3つのクラスタに分類された。さらに、正準判別係数を用いて、この3つのクラスタの判別の正しさを交差妥当化で検証した。判別の中率は93.30%であり、階層的クラスタ分析で得られた3つの分類が

非常に正しく分類されていた。正準判別係数1と2の得点を使って、図2に3つのクラスターの分布を示した。図2から、3つのクラスターは、主に関数1の得点で明瞭に分けられることが窺える。以下に、各クラスターに含まれる和製英語の特徴を考察する。

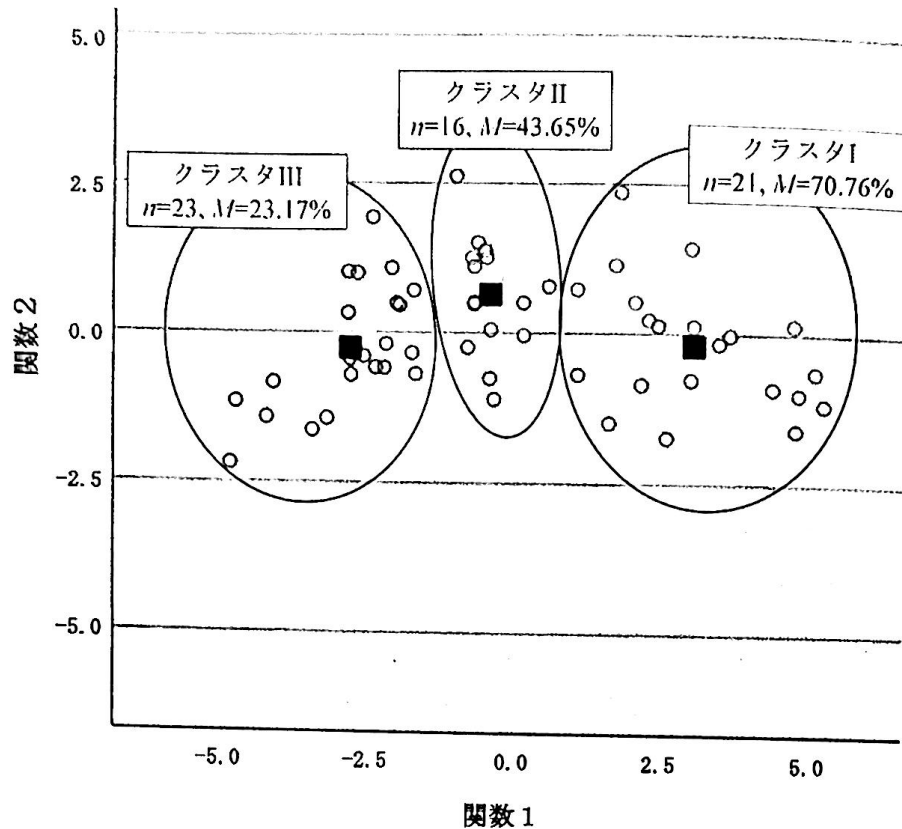


図2 正準判別関数1と2による和製英語の3つのクラスターの分布

注：■は各クラスターの重心を示す。Mは平均正答率。

中国人日本語学習者のクラスターIの和製英語の平均正答率は70.76%、クラスターIIが43.65%、クラスターIIIが23.17%で、正答率に大きな違いがみられた。クラスターIは平均正答率が70.76%で、上位・中位・下位群を通じて正答率が高かった。このクラスターには21語が含まれ、単純語が12語、複合語が9語であった。単純語の12語の内、「ホーム」「ユニーク」「レンジ」などの使用頻度は非常に高く、頻度が1万回を超えている和製英語もあった。残りの「ファイト」「パーキング」「コンセント」「クーラー」については、使用頻度は高くないが、「日本語教育語彙表 Ver 1.0」で難易度では初級・中級レベルの語彙とされている。これらの単純語は、日常生活で頻繁に使用される語彙

であり、日本語学習者に馴染みがあったようである。一方、複合語の9語については、主に「ガードマン」のような前項の「安全を守る」と後項の「人」を合わせて自然に「ガードマン」の「警備の人」となり容易に意味に辿り着ける語である。つまり、意味的に透明性が高いといえよう。さらに、これらの複合語には母語の中国語に対応する語がある。たとえば、「ゴールデンウィーク」は中国語で「黄金周(黄金週)」で、そのまま訳すと同じ意味になる。中国語に対応語があることが、意味の理解を促進している可能性がある。

表3 クラスタ I の和製英語一覧

ID	和製英語	種類	全体
1	ホーム	単純語	0.55
22	ファイト	単純語	0.58
8	ユニーク	単純語	0.63
25	パーキング	単純語	0.66
3	レンジ	単純語	0.66
6	サイン	単純語	0.66
13	ハーフ	単純語	0.70
14	サンド	単純語	0.70
26	コンセント	単純語	0.76
4	マンション	単純語	0.85
19	クーラー	単純語	0.85
12	アイドル	単純語	0.86
平均			0.71
標準偏差			0.10
60	アイマスク	複合語	0.58
58	シーズンオフ	複合語	0.61
34	ガソリンスタンド	複合語	0.62
35	イメージアップ	複合語	0.64
40	スクートライン	複合語	0.69
37	ビジネスチャンス	複合語	0.73
56	ガードマン	複合語	0.82
51	ゲームセンター	複合語	0.83
31	ゴールデンウィーク	複合語	0.87
平均			0.68
標準偏差			0.16

表4 クラスタ II の和製英語一覧

ID	和製英語	種類	全体
24	バイク	単純語	0.38
20	デパート	単純語	0.39
29	オーバー	単純語	0.40
11	タレント	単純語	0.42
23	クレーム	単純語	0.44
10	トランプ	単純語	0.47
15	シール	単純語	0.48
9	リストラ	単純語	0.48
5	ポスト	単純語	0.50
平均			0.44
標準偏差			0.04
42	ワンマン	複合語	0.43
52	オーダーメイド	複合語	0.40
55	ケアハウス	複合語	0.41
36	サポートセンター	複合語	0.41
57	エコバッグ	複合語	0.44
38	マイペース	複合語	0.47
53	セールスポイント	複合語	0.47
平均			0.41
標準偏差			0.10

クラスタ II は、平均正答率が 43.65% で、クラスタ I より低かった。主に語彙力の上位群になって正答率が高く半分以上の学習者が正しく理解できた。中位・下位群の正答率は 20.00% 前後から 40.00% 前後の範囲にとどまっ

ている。このクラスタには16語が含まれ、単純語9語、複合語の7語であった。このクラスタの単純語には、「バイク」「デパート」「リストラ」「ポスト」のようなオリジナルの英語を省略したものがある。これらの和製英語の理解は、省略する前の英語の意味がわかれば、和製英語の意味も理解しやすいであろう。

また、英語や日本語との意味関係が和製英語の理解に影響することも考えられる。たとえば、「タレント」は英語で「才能のある人」という意味である。そのため、英語の意味をそのまま解答にする人が多かった。しかし、日本語では、テレビ番組に出演する歌手・俳優・司会者や文化人などをさす。この種の和製英語は、英語の干渉を受けやすいと考えられる。一方、「セールスポイント」は、学習者の母語である中国語では「卖点（商品の強調整点）」の1語で表示される。それに対して、「マイペース」は、中国語では「我行我素」で1語では表せない。このように、クラスタⅡの複合語は、意味的透明性がやや低く、英語や中国語の知識が部分的にしか利用できない語のようである。日本語の語彙力がある程度高くなくては、これらの和製英語の理解は難しいようである。

クラスタⅢは、クラスタⅠと対照的に、和製英語の正答率が極めて低い ($M=23.17\%$)。基本語彙力が向上しても、和製英語の理解は向上していない。このクラスタに含まれる23語は、9語が単純語で、それ以外の14語は複合語であった。まず、単純語の品詞が、クラスタⅠとⅡに比べて多様である。たとえば、「コンプレックス」のような名詞でも形容詞でもありうるような和製英語、「サービス」のような名詞でも動詞でもありうるような和製英語である。また、概念も抽象的であるため理解が難しいようである。さらに、これらの和製英語は、英語で頻繁に使用する傾向があり、英語の意味に引きずられやすいように思える。たとえば、「テンション」は、「圧力」「緊張」という英語の意味でよく使用される。しかし、日本語では、「テンションが上がる」のように楽しい気持ちで気分が高揚することを表す語として使われる。英語との違いが微妙で抽象的であり、推測が難しいと思われる。

また、クラスタⅢの複合語では、「ベッドタウン」が中国でも同様の意味で「卫星城」がある。これ以外にも「シンボルマーク」「ゴーサイン」「ロー

表5 クラスタⅢの和製英語一覧

ID	和製英語	種類	全体
28	ムーディー	単純語	0.15
21	コンプレックス	単純語	0.21
30	セレブ	単純語	0.23
2	サービス	単純語	0.24
7	スマート	単純語	0.24
18	リフォーム	単純語	0.25
16	アポ	単純語	0.30
17	フロント	単純語	0.31
27	テンション	単純語	0.31
平均			0.25
標準偏差			0.05
47	ベッドタウン	複合語	0.03
45	バックナンバー	複合語	0.06
33	ペーパードライバー	複合語	0.09
46	キャッチコピー	複合語	0.11
39	シンボルマーク	複合語	0.19
50	ゴーサイン	複合語	0.23
54	メールマガジン	複合語	0.23
59	ロールケーキ	複合語	0.27
44	コストダウン	複合語	0.28
48	キーホルダー	複合語	0.28
32	テープカット	複合語	0.30
49	ムードメーカー	複合語	0.31
43	タイムスリップ	複合語	0.34
41	フリーライター	複合語	0.35
平均			0.23
標準偏差			0.09

ルケーキ」「コストダウン」「キーホルダー」「テープカット」「フリーライター」なども中国語に対応する語が存在する。しかし、これらの和製英語は意味的な透明性が低いいため、正しく理解されなかったようである。また、複合語を構成する前後の語を結合しても意味が推測し難い和製英語もあったようである。たとえば、「ペーパードライバー」は、「紙」と「運転手」で英語から個々の語の意味はわかりやすい。しかし、長く車を運転することがない運転免許証取得者という意味に結びつけるのは難しい。このようにクラスタⅢは、オリジナルの英語の意味と日本語での和製英語との意味との関連をみいだすのが難しく、また中国語に対応する語があったとしても概念的に抽象的であるなど、理解が難しい和製英語のようである。

4 おわりに

本研究では、中国人日本語学習者 191 名を対象に日本語の基本語彙力から和製英語の理解を検討した。本研究の結果は以下の 3 点にまとめられよう。

第 1 に、和製英語は、単純語のほうが複合語よりも理解が容易であった。これは、2 つの英単語から構成される和製英語が、英語のオリジナルの意味から離れて、より抽象化されていることに起因するのではないかと思われる。

第 2 に、単純語か複合語かの違いにかかわらず、中国人日本語学習者の基本

語彙力で分けた下位・中位・上位群で、和製英語の理解が向上した。和製英語も日本語の語彙であり、学習者の基本語彙の理解が向上すると共に、理解が高まるようである。第3に、日本語の基本語彙力の下位・中位・上位群の和製英語60語の正答率を使ってクラスタ分析で分類した結果、和製英語が3つのクラスタに分けられた。クラスタⅠは、学習者にとって馴染みがあり、意味的透明性が高く母語の中国語の知識が有効に利用できたようで、正答率が高かった。クラスタⅡは、基本語彙力が上位群にならないと理解が促進され難い和製英語であった。これらは、英語の意味には馴染みがあるものの日本語とは意味が異なるので、両言語で干渉が起きたり、意味的透明性がやや低かったりしたようである。クラスタⅢは、学習者にとって最も難しい和製英語で、品詞が多様で、概念的に抽象的で、英語の意味との関連性が低いことが正答率を低めたのではないかと思われる。

今後、日本語の基本語彙力ばかりでなく、英語の基本語彙力（張ほか、2014）の影響も考察してみる必要がある。また、中国人日本語学習者に限らず、母語の異なる日本語学習者に同様の調査を実施して比較することで、母語の違いによる和製英語の理解を考察することができよう。

参考文献

- 国立国語研究所（2005）『現代雑誌の語彙調査—1994年発行70誌—』国立国語研究所。
- 国際交流基金・日本国際教育協会（2002）『日本語能力試験出題基準（改訂版）』東京：凡人社。
- 小林善久（2013）「TVCMにおける和製英語のパイロット調査—文字テキストと音声テキストの対照を軸に—」『第3回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』117-126。
- 呉梅（2020）「中国語を母語とする日本語学習者の複合語形式の和製英語の意味推測に関する研究—日本語の語彙知識から—」『国際日本学研究論集』12, 79-103。
- 呉梅（2022）「中国語を母語とする日本語学習者の複合和製英語の意味推測に影響する要因」『国際日本学研究論集』16, 13-26。

- 柴崎秀子・玉岡賀津雄・高取由紀 (2007) 「アメリカ人は和製英語をどのくらい理解できるか—英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に関する調査—」『日本語科学』 21, 89-110.
- 玉岡賀津雄 (2022) 「日本語学習者の記憶メカニズムと心的辞書の構造」『第二言語としての日本語の習得研究』 25, 57-83.
- 玉岡賀津雄 (2018) 「3 言語間の語彙的結合—中国人日本語学習者による L3 日本語の外来語処理における L1 中国語と L2 英語の影響」『中国語話者のための日本語教育研究』 9, 17-34.
- 玉岡賀津雄・林炫情・池映任・柴崎秀子 (2008) 「韓国語母語話者による和製英語の理解」『レキシコンフォーラム』 4, 195-222.
- 張婧禕・玉岡賀津雄・早川杏子 (2014) 「和製英語の理解における英語および日本語の語彙知識の影響—中国華東地域の日本語学習者を例に—」『日本教科教育学会誌』 36(4), 23-32.
- 堤智昭・小木曾智信 (2015) 「歴史的資料を対象とした複数の UniDic 辞書による形態素解析支援ツール『Web 茶まめ』」『じんもんこん 2015 論文集』 179-184.
- 橋本和佳 (2008) 「現代日本語における外来語増加の S-curve モデル: 大正から平成までの社説の通時的調査を通して」博士論文, 同志社大学.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) 「日本語語彙テストの開発と信頼性—中国語を母語とする日本語学習者のデータによるテスト評価」『広島経済大学研究論集』 34(1), 1-18.